

令和7年度耐震リフォーム達人塾(ベーシックコース) 質問・回答

	質問	回答
1	<p>現在は、耐震診断、補強設計を行うのに日本建築防災協会の耐震プログラムWeeの精算法を使用していますが、低コスト工法を採用する場合は、達人塾で使ったソフト(TS)を使用する必要があるのでしょうか。</p>	<p>低コスト工法を採用する場合でも、特定の診断ソフトに限定されるものではありません。</p>
2	<p>・実験データによる耐力壁の基礎耐力データと実際の施工時における品質管理におけるギャップが大きいのではないかと感じています。 ・特に内部壁を補強した場合、基礎なしでもOKとの解説がありましたが、柱頭・柱脚への負荷をN値計算によって解決することを前提に考えるとしっかりこないのその点について教えていただきたいです。</p>	<p>布基礎なし(束立基礎、玉石基礎)の場合には、基礎ランクに応じて壁基準耐力を低減させることになっています(日本建築防災協会のマニュアルを参照してください)。低減させた耐力で補強設計を行えばもちろん問題ありません。</p>
3	<p>既存基礎、梁に後付け工法のブレース(工法名:アイワン)はやりやすいと思いましたが、木造梁の穴あけ貫通ボルトの取り付けの方法を座金、金属プレートの取付の詳しい方法を教えていただきたいです。</p>	<p>アイワンをお使いいただくには、指定講習を受講する必要があります。この講習の中で詳しい方法について、お伝えしています。</p>
4	<p>・テキスト鉄則p13に示されている図では、ボード張り付けの改修方法が記されていますが、下地柱の有る縦(長辺)方向は釘止めされていますが、短辺方向は釘止めされていません。不要なのでしょうか? ・又、短辺の下地も必要ではないのでしょうか?</p>	<p>短辺方向の受け材、釘打ちは不要です。また、合板のつなぎ材も不要です。この形で実験をし、耐力を評価しています。</p>